

多文化共生社会へ進む おごおり

キーワードは「お互いに暮らしやすいまち」



小郡市には、現在約1,200人の外国人が住んでおり、外国人と日本人がともに暮らすまちへと変化してきています。

小郡市では令和3年度、日本人市民・外国人市民・留学生に多文化共生に関するアンケートを行いました。その結果、同じ地域・住民として助け合いや交流が必要だと感じている回答が多くありました。一方、外国人は、言葉や生活習慣の違いから困惑したり生活上の不安を感じたりしていることや、日本人では外国人との交流に言語面での不安をもっていることが分かりました。

日本人と外国人が、お互いに不安をなくし交流していくためのキーワードは「お互いに暮らしやすいまちづくり」、言い換えると「多文化共生のまちづくり」です。市は、日本人市民と外国人市民がお互いの文化を尊重しながら共に安心して生活できることをめざすため、さまざまな取組を行っています。

外国人への取組

①外国人への情報提供

小郡で日本人も外国人も共に快適に過ごすためには、日本での生活ルールを外国人に知ってもらう必要があります。市は、ごみの出し方や自転車に乗るルールなどを、警察をはじめ関係機関と連携して日本語学校の留学生などに伝えています。また、情報を正しく伝えるために、“やさしい日本語”で書かれた「おごおりの生活ガイドブック」の発行や市ホームページ「外国人のみなさんへ」のコーナー設置、市役所窓口への翻訳機設置などを行っています。

②日本語を学ぶ機会の提供

小郡市とおごおり国際交流協会は、小郡市近郊に在住する外国人を対象に「おごおり日本語教室」を開催しています(年30回)。専門の講師が、毎週火曜日の19時から、無料で日本語を教えています。

外国人市民の皆さんへインタビュー



ガラリド・ミラルズさん
フィリピン 30歳
技能実習生(農業)

Q. 小郡のいいところは？
何と言っても平和で、人が優しいところが魅力だと思います。



ノロハイダ・アリムさん
フィリピン 34歳
技能実習生(農業)

Q. 小郡に望むことは？
すてきなお店がいっぱいできて、もっとイルミネーションや花火があるといいな。



マルテス・アログサロさん
フィリピン 38歳
技能実習生(農業)

Q. 日本の好きなところは？
福岡のような大きな街が好き。大きなガンダムだっているんだもの。



ジョベール・ダバレスさん
フィリピン 27歳
技能実習生(農業)

Q. 将来の夢は？
家族とビジネスをやりたいです。野菜ビジネスができるといいな。

日本人への取組

①円滑なコミュニケーションのための「やさしい日本語」講座

令和3年度に行った「多文化共生に関する外国人市民アンケート」では、ほとんどの外国人が、簡単な日本語を理解できると答えています。

そこで、日本人が外国人と円滑にコミュニケーションを取れるように、11月20日、一般財団法人自治体国際化協会地域国際化推進アドバイザーの矢野花織さんを講師に迎え、「やさしい日本語」講座を開催しました。

講義では、具体例を挙げて、外国人に伝わりやすい表現を学びました。グループワークでは、参加した外国人と「やさしい日本語」を使って交流するなど、和やかな研修会となりました。



「やさしい日本語」とは

「やさしい日本語」とは、普段使う日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語のことです。小学2、3年生が理解できる程度の話し方です。漢語や熟語をできるだけ使わない、短く言うなどのポイントがあります。ただし相手が成人の場合は、子どもを相手にするような話し方にならないよう気を付けましょう。やさしい日本語の使い方のポイントを市ホームページに掲載しています。



例文

土足厳禁です

言い換え例

靴を脱いでください

土足厳禁!

脱ぐ?
脱がない?!



②異文化とふれあう国際理解講座

小郡市とおごおり国際交流協会は、日本人を対象にさまざまな国の文化を学ぶ「国際理解講座」を開催しています。この20年間で47の国と地域について学んできました。国際理解講座では直接外国人講師から、その国の文化の講演と料理教室を行ってきました。

令和5年度も開催予定です。興味のある人はぜひご参加ください。詳しくは、広報紙や市ホームページでお知らせします。



▲令和4年11月開催の国際理解講座
(ウクライナ)

問 総務広報課男女共同参画推進室 ☎72-2111